

次世代へ伝えたい
戦争と平和

平和祈念像

NAGASAKI  TSUCHIZAKI

ナガサキ・土崎

入場無料

被爆証言講話会

平成28年

同時開催 長崎原爆被災写真展・土崎空襲資料展示

7/23  24  午前10時～正午〔両日とも〕

にぎわい交流館AU 4階研修室1・2

秋田市中通1丁目4番1号 電話018-853-1133

お問い合わせ 秋田市企画調整課 電話 018-888-5464



講話者
長崎被爆体験者
末永 浩氏

(公財)長崎平和推進協会継承部会長

行事内容

- ◆長崎被爆体験者による講話 (10:00～11:00)
(講話者/末永 浩氏 (公財)長崎平和推進協会継承部会長)
- ◆土崎空襲体験者による講話・DVD上映 (11:00～12:00)
(講話者/土崎港被爆市民会議)



主催/秋田市 協力/公益財団法人長崎平和推進協会、長崎原爆資料館、土崎港被爆市民会議、CNA秋田ケーブルテレビ
後援/秋田県教育委員会、秋田市教育委員会、平和首長会議、日本非核宣言自治体協議会、秋田魁新報社、朝日新聞秋田総局、河北新報社、毎日新聞秋田支局、
読売新聞秋田支局、産経新聞社秋田支局、日本経済新聞社秋田支局、時事通信社秋田支局、共同通信社秋田支局、NHK秋田放送局、ABS秋田放送、
AKT秋田テレビ、AAB秋田朝日放送、エフエム秋田

NAGASAKI TSUCHIZAKI

しょうわ ねん ねん ねん がつ か ごぜん じ ふん ながさきし とうか げん しぼくだん
 昭和20年(1945年)8月9日午前11時2分、長崎市に投下された原子爆弾は、
 いっしゅん とし はかい いくた とうと せいめい うば
 一瞬にして都市を壊滅させ、幾多の尊い生命を奪いました。

また、ここ秋田では、終戦前夜の8月14日から15日未明にかけて、土崎地区に
 まん せんぱつ こ ばくだん とうか くのうしゅう にほんさいこ くのうしゅう よ
 1万2千発を超える爆弾が投下され、この空襲は、「日本最後の空襲」と呼ばれて
 います。

このような悲劇を二度と繰り返さないため、秋田市は、体験者の講話や原爆被
 さいしゃしん つちぎきくうしゅうしりょう てんじ とお きおく じせだい かた つ
 災写真・土崎空襲資料の展示を通して、その記憶を次世代に語り継ぎます。



溶けた6本の瓶
 長崎原爆資料館提供【岡田 寿吉 氏（寄贈）】



土崎空襲を受けた旧日本石油秋田製油所の倉庫内



山王神社
 長崎原爆資料館提供【林 重男 氏（撮影）】



土崎空襲で死亡した児童が着ていた学童服
 (右脇腹(赤い布部分)から右肩甲骨へ爆弾の破片が貫通)



松山町の高台から浦上天守堂方面を望む／長崎原爆資料館提供【林 重男 氏（撮影）】



こうわしゃ
 講話者

すえ なが ひろし
 末永 浩 氏

なが さきけんいさはやし そふたく そかい がつ か そぼ あに にん ちゅうしよくじゅんび
 長 崎県諫早市の祖父宅に疎開していた8月9日、祖母と兄と3人で昼食の準備
 をしていたとき、突然、ピカリと辺りが白く光った。稲光ではないだろうと思っ
 ていると、ドーン!と大地を揺るがすような音が聞こえた。

は わた そら くら ながさき ほう あか あお くる い
 晴れ渡っていた空が暗くなり、長崎の方から赤いような青いような黒いような、異
 様な雲が流れてきて上空を覆った。

いそ み は おか い ながさき ほうめん み も わ
 急いで見晴らしのよい丘へ行き、長崎の方面を見ると、燃えているのが分かった。

「きっと母も妹も死んだに違いない」と思い、こぼれそうになる涙をこらえながら、
 見つめていた。